（別紙4）　　平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2671600233		
法人名	有限会社　康生会		
事業所名	グループホーム　三愛の里		
所在地	〒621－0002　京都府亀岡市千歳町千歳白髭17番地		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　野の花
所在地	〒606－8434　京都市左京区南禅寺下河原1
訪問調査日	平成24年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

亀岡の田園風景が一望できる高台に立地しており、一年を通じて季節、自然を感じられる。　ご利用者の生活状況を毎月、家族様にお知らせし、ご協力を頂きながら、ご利用者が生き生きと生活されるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

亀岡市の北部、出雲大神宮のすぐそばの高台にあるグループホームで、眼下に市街や田園風景が季節ごとに楽しめる。開設10年になり、グループホームとしてのレベルの高いケアができている。とくに毎日の手作り食事は地元の食材を使い、高齢者の食べなれた昔からのメニューで季節感がある。利用者を人生の先輩として尊厳をもって接し、職員は学ばせていただく良い機会ととらえるという、理念に掲げられた介護の基本精神を職員は実践する努力をしている。また自身のホームや自身のケアに閉じこもることなく、京都府グループホーム協議会等に加盟し、学んだり、日本グループホーム協会の全国フォーラムに参加するなど、外部に目を向けている。ホーム内は明るい雰囲気で、利用者はここを家と考え、笑顔が増えたと家族は言う。そのためか、ホームで初めて出会った利用者同士が仲良しになり、いつも寄り添い、片方が体力が落ちるとその友だちも落ちるということを体験している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事への参加。ホームでの行事には地域の子供達を誘って交流を深めている。	開設時に策定された理念を『利用案内』に掲載し、利用者と家族に説明している。ホーム内に掲示している。毎週職員とともに理念の確認を行っている。職員は理念の精神を毎日の仕事で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加、出品している。近所の清掃をしている。運動会の観戦。クリスマス会を行っている。	利用者は買い物やなじみの美容院に出かけている。千歳町の宝船祭りに編み物、貼り絵等を出品し、参加している。小学生が取材に来て学校新聞を作り、その後体験実習にも来てくれている。幼稚園との交流がある。ボランティアが庭の手入れなどに定期的にくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンの実施。シルバー110番。老人会の代表の方に運営推進会議に参加してもらい、利用者の現状やケアの方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	朝礼やカンファレンス等で報告している。	家族、町内住民、元老人会会長、市高齢福祉課、地域包括支援センターがメンバーとなり、隔月に開催し、議事録は全家族に送付している。メンバーは利用者の食事を試食したり、イチゴ狩り等の行事に参加し、活発に意見を述べている。「南丹病院のリハビリに相談しては」との意見により検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で問題点を伝え、お互いに理解を深めていけるよう、話し合っている。	市とは日常的に連絡をとり、種々相談をしている。市には地域密着型サービス事業所連絡会等がない。	亀岡市内にある地域密着型サービス事業所連絡会を市の応援で立ち上げ、交流・研修等を実施することが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしているが、危険を伴う利用者に対しての対策として、玄関の施錠はしている。	身体拘束ゼロの方針があり、職員研修を実施している。いままで実例はない。敷地内はいずれも施錠されていない。外への唯一の出入り口である門扉を施錠している。	身体拘束ゼロの方針に則って、門扉の施錠について、職員で十分話し合い、1日のうちで短時間でも開けておける時間帯はないのか等、検討することが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底をしている。連絡は漏れないように伝え、内出血の痕は、原因を追究して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けて学んだことを支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をして、理解や納得をしていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。いつでも誰にでも意見を伝えてもらえるように最初に話している。年2回家族会を開催し、意見を聞いている。	家族には担当職員が毎月簡単なお便りを書いている。また毎月写真入りの楽しい記事の『家族通信』を届けている。家族会は年2回開催、その他家族は敬老祝賀会、花見、高浜バス旅行等、行事参加も多い。行事の時には協力も得られている。転倒防止の対策について意見があり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月行い、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	運営に関する職員会議は全員参加で毎月実施し、意見は予め記入してもらっている。職員の意見により、生活チェック表の記録落ちがないように、書きやすい形式に変更している。シフト、研修受講、資格取得等の希望を聞き、受講料等の支援をしている。カンファレンスと内部研修を全員参加で毎月実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、経験、意欲などを考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	京都府認知症介護実践者研修、リーダー養成研修をはじめ、介護労働安定センター、府社協、府、市主催の研修を受講している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等に参加して、研修や意見交換、情報交換している。又、他のグループホームで体験交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の願い、思いをゆっくり聞いてあげるように心掛けている。特に最初の1ヶ月は、早く馴染めるように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みをされる前に、ゆっくり見学に来ていただき、不安を感じられない環境に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より細部に渡り要望を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の持っておられる尊厳を大切にして接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かく家族にお伝えしている一方で一年を通して何度か（花見、敬老祝賀会）を一緒に過せる楽しい一日を計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の思い出話を聞かせていただいたり、面会にこられた時は、お部屋でゆっくり過していただいている。	利用者が以前住んでいた近所の友人と会いたいとの気持ちがあり、まず電話をかけることを支援し、友人がホームに会いにきてくれて楽しそうに話している。兵庫県出石にあるお墓に行きたいという利用者に、家族に協力を依頼し、同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まっていただき、個々で得意な事をしてもらったり、皆で一緒に歌を歌ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、今まで同様のフォロー、相談に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望にそえるように努めている。	利用開始時に家族、利用していた介護サービスのケアマネジャー等に情報を得ている。「生活史」や「くらし方シート」に、生家、その仕事、兄弟姉妹、結婚相手の仕事、子ども等、記録している。「自分らしく暮らしたい」「旅行・編み物が好き」等、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境を把握し、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、心身の現状を把握できる様に観察している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、観察している様子を毎月行っているケアカンファレンスで、検討して計画を作成している。	アセスメントにより、ケアプランを立て、職員会議で検討している。ケアプランに暮らしのなかの楽しみがない。入浴拒否などの明らかな課題が入っていない。ケアプランを実施した記録があるがモニタリングの記録がない。	ケアプランには課題は必ず入れること、暮らしのなかの楽しみや生きがいとなるような項目をいれること、モニタリングはケアプランにそって毎月実施し、記録に残すこと、の3点が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースレコードを細かく記録している。何か気付いた時は職員間で、報告、連絡、相談に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安全で楽しい暮らしをおくれる様に、それぞれの得意な事を把握し、能力を発揮していただける様、工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診については、本人及びご家族の希望を優先し、決めている。	連携している医療機関から医師が毎月利用者を往診してくれている。看護師は毎週来訪し、点検してくれる。内科以外の利用者の定期受診は家族がつれていく。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの方と、日々の関わりの中で気付いた情報を訪問看護師に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように、お手伝いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と常に情報を交換し、関係強化を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院、家族と話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	「グループホーム三愛の里での利用者の終末期においての指針」を策定し、利用者や家族に説明し、同意書をとっている。医療機関と連携し、看護師は24時間オンコール体制となっている。職員研修を実施している。家族の希望により、入院となったが、ぎりぎりまでホームで介護した経験を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2ヶ月に1回、救助訓練を実施し、急変時の心構えや実務を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度、避難訓練をして、火災や地震に備えている。	消火器、スプリンクラー、感知器、通報機、防火管理者を備え、消防計画を立てている。ハザードマップ・備蓄を備えている。AEDを設置している。消防署、消防団の協力を得て避難訓練を毎月実施している。「予告なし」「夜間」の避難訓練が実施されていない。	夜間に避難訓練を実施すること、予告なしの避難訓練を実施することの2点が望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを守りながら、人格や誇りを損ねないよう、会話にも気配りしている。	トイレも居室も中から鍵をかけることができ、プライバシーが保たれている。職員は呼び掛けるのは名字で、丁寧な言葉遣いを心掛けている。飲み物など、自分で選んでもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を自らが決めて、発言できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調不良や疲れなどは、それぞれ確認した上で、希望が叶うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類を、ご本人の希望をお聞きしながら、身だしなみやおしゃれを応援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好物などを尋ねて、口に合うものを選んでいただき、食事の準備や片付けを一緒にしている。	献立は利用者の希望を入れながら職員がたて、買物に行く。季節感のある、地元食材を使った昔ながらの献立である。おかわりは自由である。食卓にはお茶がおかれ、利用者は会話しながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分の確保、一日を通じて習慣的に応援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いを、毎食後に口腔ケアをして、本人が清潔保持できるよう、応援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間を見ながら声かけをしてトイレ誘導を行い、リハビリパンツやパットの使用量を減らしていけるよう、支援している。	排泄の方針は自立を目指し、なるべくトイレでの排泄ができるよう、支援することである。排泄チェック表の記録をもとに、誘導をしている。おむつ使用が必要なくなった利用者等、改善例がある。自家製ヨーグルトや野菜の摂取、運動を排便の対策として支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、記録し把握している。水分補給を心がけ、さんぽ、体操、レクレーションで身体を適度に動かすことで、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間等、希望にそえるようにしている。声かけにおいては、入りたいかどうかの確認をし、入浴を好まない方には、言葉のかけ方等の工夫をしながら、入浴の支援をしている。	隔日に入浴することを目指している。希望があれば、毎日でも支援している。入る時間帯や湯温等は希望にそっている。ゆず湯、みかん湯、しょうぶ湯を楽しむこともある。入浴拒否の利用者には、声掛けの工夫、家族に勧めてもらう等、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動をしてもらい、生活リズムを作って、夜間安眠できるようにしている。又、夜間の不眠時、好みの飲み物を提供したり、傾聴する等、安眠できるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報を見て、服薬する薬の目的や副作用、用法について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐ為の支援をしている。薬の変更があったり状態の変化がある時には、記録し申し送りや連絡ノート等で連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や趣味を把握し、その方らしく過せる役割や楽しみを持ってもらえるような場を作りだせるよう、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調に応じて、散歩をしたり外食等の支援をしている。	ホームから出て少し歩くとさらに見晴らしの良い場所があるため、天気の良い日は散歩に出かける。出雲大神宮への初詣やもみじ狩り、七谷川の堤での花見、ハスの花を見に池尻へ、運動公園でのコスモス、農業公園での季節ごとの花を楽しむ等、外出を楽しんでいる。高浜へのバス旅行は楽しい思い出である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望されるものは、ご家族の方に持ってきて頂いたり、こちらで用意できるものは、ご家族に了承していただき、立て替えて購入し、できるだけ希望に応えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に了解いただき、ご家族の負担にならない程度、ご本人自ら、ご家族へ電話をかけたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分に花やご利用者の作品を飾ったり、季節を感じられるよう工夫している。室温も不快に感じないよう、一定の室温を保ったり、一人ひとりの方に声をかけたりしている。	市街の風景が見渡せる全面ガラス窓の明るい居間兼食堂である。手作りの日めくりで日付の確認をしている。取材に来た小学生が作成した学校新聞、来訪した幼稚園からもらった手作りの季節の飾り、利用者の笑顔の写真等で暖かい雰囲気をつくっている。あたりは静かであり、日光はカーテンで調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おひとりずつの決められた座席を設け、共有空間にも安心して入っていただけるようにしている他、ソファーや廊下にベンチを置き、交流できる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や寝具等、家族の方と相談し持ち込んだり、一人ひとりの大事にされてきた物を飾ったり、ご本人らしい居室作りを心掛けている。	クローゼット、ベッド、エアコン、防炎カーテン等が備え付けられた洋間に利用者は使い慣れた箪笥、ケース、飾り棚、テレビ等を持ち込んでいる。相撲の好きな人は横綱の大きな写真や番付表、また孫の正装した写真、家族の写真等を飾り、自分の居場所にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアにご本人の名前入りの写真を飾り、居室をご自分で確認できるよう、安全で自立した生活を送れるように工夫している。		